慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中国一党支配体制の形成と変容：歴史的制度論からの考察
Sub Title	The structure and transformations of one-party rule in China : historical institutionalism in Chinese politics
Author	加茂, 具樹(Kamo, Tomoki) 小嶋, 華津子(Kojima, Kazuko) 倉田, 徹(Kurata, Toru) 毛利, 亜樹(Mori, Aki) 呉, 茂松(Go, Mosho) 梶谷, 懐(Kajitani, Kai) 高原, 明生(Takahara, Akio) 中西, 嘉宏(Nakanishi, Yoshihiro) 金野, 純(Konno, Jun) 林, 載桓(Lim, Jaehwan)
Publisher	
Publication year	2018
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は, 中国政治を形づくっている政治制度に注目し, 中国共産党による一党支配を成り立たせ, また変容させてきた要因を検討した。中国共産党支配を支える制度を(1)「包容と強制」の制度(民主的制度と刑事司法制度), (2)「エリート政治」を形づくる制度(集団領導制, 領導小組, 幹部選抜任用制度), (3)中央地方関係と経済を形づくる制度(北京・ 香港関係, 分散的権威主義体制下における経済制度)に腑分けし, 各制度がどの様に形成され持続し, 変化してきたのかを「歴史的制度論」の分析枠組みをふまえて論じた。本研究の成果は『現代中国の政治制度：時間の政治と共産党支配』(慶應義塾大学出版会, 2018年)として出版した。 This study looks at the various political institutions that form Chinese politics and attempts to examine the factors that comprise one-party rule by the Chinese Communist Party (CCP), and those that have transformed it. In taking the approach described above, this study dissects the institutions that supports the rule of the CCP into : 1. the institutions of "co-optation and coercion" (democratic institutions and criminal justice institutions), 2. the institutions that form "elite governance" 3. the relationship between the center and the regions, and the institutions that form the economy. Each institution is examined for how it is made up, has been maintained, and has transformed. The results of this study were published as China's Political System : The Politics in Time and Communist Party Rule (in Japanese), from Keio University Press, at 2018.
Notes	研究種目：基盤研究(B)(一般) 研究期間：2015～2017 課題番号：15H03141 研究分野：比較政治学, 現代中国論, 国際関係論(東アジア, 日中関係)
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_15H03141seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０３１４１

研究課題名（和文）中国一党支配体制の形成と変容：歴史的制度論からの考察

研究課題名（英文）The Structure and Transformations of One-Party Rule in China: Historical Institutionalism in Chinese Politics

研究代表者
加茂　具樹（KAMO, Tomoki）

慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・客員教授

研究者番号：３０３６５４９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国政治を形づくっている政治制度に注目し、中国共産党による一党支配を成り立たせ、また変容させてきた要因を検討した。中国共産党支配を支える制度を（１）「包容と強制」の制度（民主的制度と刑事司法制度）、（２）「エリート政治」を形づくる制度（集団領導制、領導小組、幹部選抜任用制度）、（３）中央地方関係と経済を形づくる制度（北京・香港関係、分散的権威主義体制下における経済制度）に腑分けし、各制度がどの様に形成され持続し、変化してきたのかを「歴史的制度論」の分析枠組みをふまえて論じた。本研究の成果は『現代中国の政治制度　時間の政治と共産党支配』（慶應義塾大学出版会、2018年）として出版した。

研究成果の概要（英文）：This study looks at the various political institutions that form Chinese politics and attempts to examine the factors that comprise one-party rule by the Chinese Communist Party(CCP), and those that have transformed it. In taking the approach described above, this study dissects the institutions that supports the rule of the CCP into: 1. the institutions of " co-optation and coercion" (democratic institutions and criminal justice institutions), 2. the institutions that form "elite governance" 3. the relationship between the center and the regions, and the institutions that form the economy. Each institution is examined for how it is made up, has been maintained, and has transformed. The results of this study were published as China's Political System: The Politics in Time and Communist Party Rule (in Japanese), from Keio University Press, at 2018.

研究分野：比較政治学、現代中国論、国際関係論（東アジア、日中関係）

キーワード：現代中国政治　歴史的制度論　中国共産党　権威主義体制

１．研究開始当初の背景

天安門事件直後の 1990 年代、中国政治研究の主な論点は、共産党による一党支配の脆弱性と体制移行の可能性であった。そこでは、経済危機による共産党の分裂や、政治的自由を求める中産階級の成長といった、体制変動を予見する様々な議論が提出された。しかし、その後の中国政治は、当初の予測とは相当に異なる展開を示してきた。急速な経済成長が続き、結果として登場した中産階級は共産党の一党支配に対抗的な行動をとることはなかった。共産党は、経済発展と政治的安定の同時実現に成功したのである。

こうした状況は、中国政治研究の焦点を、体制の存続とその強靭さの説明に移らせた。そこで、内外の研究者の関心が集まったのは、予想外の生存能力を示した共産党であった。たとえば B.ディクソンは、1990 年代以降共産党が社会団体に対する統制管理を維持する一方、知識人と企業家の包摂を積極的に進めてきた経緯に注目し、他方で、D. シャンボーは、共産党が旧ソ連や東欧の経験を学習し、果断なる改革を実行し続けてきた点を指摘した。国内でも、「開発独裁」（唐）や「コーポラティズム」（国分）、「適応」（加茂、菱田）といった概念を通して、共産党の統治能力の増大を捉えようとする努力がなされてきた。

しかし、共産党に関するこうした内外の議論は、次の二つの問題を内包していた。第一に、肝心の共産党の生存能力がどこにその源泉をおいているかが不明である。つまり、学習能力であれ、適応能力であれ、どのようにして共産党がこのような能力を持ち、発揮することができたかについては十分な説明がなされてこなかったのである。

従来の議論に見られる第二の問題は、当然ではあるが、多くの分析が共産党の戦略や選択に集中していることである。もっとも、政治的統合の中心なる共産党の地位と役割を否定することはできない。とはいえ、共産党、または共産党指導部の政策選択が、現代中国政治をすべて規定しているわけではない。それは、現代中国政治史上における大転換がどのようにして生じてきたかを考えれば明らかである。たとえば 1970 年代後半に始まった改革開放への大転換をもたらしたのは、国際関係や社会経済の変化を含む広い範囲での政治環境の変化であり、共産党の選択は転換の構成要素であることは間違いないが、唯一の原因ではないのである。

以上の問題意識をふまえて、下記２．研究の目的に示す研究に着手した。

２．研究の目的

中国における一党支配体制は、いかなる制度基盤によって成り立っているのか。またそれは、時間の経過とともにどのような変化を遂げてきたのか。本研究は、中国政治を形づくる様々な政治制度に注目しながら、共産党による一党支配を成り立たせ、また変容させてきた要因について再検討を加えようとする試みである。このとき本研究は、制度要因と政治過程の相互作用に注目する新制度論、なかでも制度変化に対する時間的要因の重要性を強調してきた歴史的制度論の知見を積極的に援用する。

本研究の考察を通して、現代中国政治史を従来とは異なる視点から読み解くとともに、共産党による一党支配の今後について、その制度基盤に関する多面的理解に基づいた、より確かな展望を得ることが可能になると考える。

具体的には、本研究は、共産党を取り巻く政治環境、なかでも、共産党と政府（中央と地方政府）、議会（人民代表大会）、司法、軍、および市場と社会団体との関係を形づくる制度に注目し、建国後のいくつかの重要な転機における共産党の選択と行動の源泉を明らかにするとともに、結果として一党支配の態様そのものがどのように変容を遂げてきたかを考察した。

３．研究の方法

本研究は、第一に、現代中国政治を形づくる主要制度を特定し、研究代表者および分担者が取り組む具体的な研究テーマを確定する。第二に、歴史的制度論の提供する制度変化のメカニズムへの理解を深化させ、共通の理論的枠組みの構築を試みた。

（１）現代中国政治を形づくる主要制度

現代中国政治を形づくる主要な制度領域として検討の対象となるのは、およそ立法・司法・行政・市場・社会・中央地方・軍、そして党である。具体的には、①中国における代議制度の形成と変容についての考察、②司法制度の展開、③政軍関係の制度基盤の歴史的変容、④共産党の幹部任用選抜制度の歴史的変化についての考察、⑤政策決定に関する制度変容のプロセスについての考察、⑥中央・地方関係の特質に注目しつつ、中国における市場制度の歴史的変遷についての考察、⑦工会制度改革の歴史的文脈についての考察、⑧共産党の社会団体管理制度の成立と変容についての考察、⑨香港における統治制度の再構築を中心に、香港が「（中国の）地方」へ移行する過程の考察をおこなった。

（２）共通の理論的枠組みの構築

研究領域の分担と細部テーマの決定と並行して、本研究が依拠する共通の理論的基盤についての議論を重ねた。定例研究会を開催し、制度変化に関する歴史的制度論の説明について学習と議論を深めた。具体的には、関連文献の輪読とともに、国内外の専門家を講師に招き、関連研究の現状を確認した。

４．研究成果

本研究は、①中国における一党体制支配は、いかなる制度基盤によって成り立っているのか、②またそれは、時間の経過とともにどのような変化を遂げてきたのか、という問題意識を掲げ、中国政治を形づくる様々な政治制度に注目しながら、共産党による一党支配を成り立たせ、また変容させてきた要因について再検討を試みた。

本研究の研究成果は、2018 年 3 月に、加茂具樹と林載桓による共編著『現代中国の政治制度　時間の政治と共産党支配』（慶應義塾大学出版会、2018 年）として出版した。

本書は、中国の政治制度に関する先行研究が、近年の中国共産党統治の制度化が進んでいることに注目しつつも、①特定の組織機構の公的な構造と機能、または制度を構成する規則規定の詳細な紹介に注力してきたこと、②それぞれの組織や制度の成り立ちまたは歴史的展開への関心に留まっていたこと、③制度や組織を政治の従属変数と見なす傾向にあったことを、批判的に再検討することを目的としていた。

そこで本書は、①比較政治学における制度分析の枠組みを明示的に提示し、可能な限りそこから導かれる理論的知見に依拠して分析すること、②中国の政治体制の具体的制度を取り上げ、その時系列的な変化について因果関係をふまえながら説明することに努めた。

以上の問題意識をふまえ本書は、中国共産党支配を支える制度を「包容と強制」の制度（民主的制度と刑事司法制度）、「エリート政治」を形づくる制度（集団領導制、領導小組、幹部選抜任用制度）、中央地方関係と経済を形づくる制度（北京と香港の関係、分散的権威主義体制下における経済の自制的秩序）に腑分けし、それぞれの制度がどの様に形成され、持続し、変化してきたのかを論じた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 29 件）

1 林 載桓、中国の「集団領導制」の制度分析：権威主義体制、制度、時間、アジア経済、査読有、58（3）、2017、2-21

2 林 載桓、経済制裁「中国丸投げ」の虚実：北朝鮮の核開発と中国、外交、査読無、Vol.44、2017、46-51

3 林 載桓、文化大革命と人民解放軍：研究の現状と展望、中国－社会と文化、査読無、32 巻、2017

4 TAKAHARA, Akio、The CCP’s Meritocratic Cadre System、Lam, Willy Wo Lap (ed.), Routledge Handbook of the Chinese Communist Party (Routledge)、査読無、2017、153-164

5 TAKAHARA, Akio、Forty-four Years of Sino-Japanese Diplomatic Relations Since Normalization 、 Lam, Peng Er (ed.), China-Japan Relations in the 21st Century: Antagonism Despite Interdependency (Palgrave Macmillan)、査読無、2017、25-65

6 倉田 徹、林鄭月娥・香港次期行政長官は北京と市民の長和を図れるか、外交、査読無、Vol.43、2017、56-57

7 倉田 徹、大学で相次ぐ「香港独立」ポスター 言論の自由への圧力増大する、エコノミスト、査読無、95 号、2017、74-75

8 倉田 徹、返還後 20 年の香港政治：中国と香港の巨大な変化、立教法学、査読無、98 号、2017、20-40

9 金野 純、文化大革命と暴力：研究動向と今後の理論的展望、中国：社会と文化、査読無、32 巻、2017、14-33

10 金野 純、文化大革命における政治と法、中国 21、査読無、48 巻、2017、51-74

11 梶谷 懐、中国の金融リスクと人民元の国際化、東亜、査読無、599 巻、2017、20-31

12 梶谷 懐、中国経済のマクロ安定性－不動産市場の行方と地方財政－、国際問題、査読無、644 巻、2017、17-28

13 梶谷 懐、中国社会と自生的秩序－リスクと仲介の視点から－、現代中国、査読無、91 号、2017、3-17

14 倉田 徹、雨傘運動とその後の香港政治－一党支配と分裂する多元的市民社会、アジア研究、査読有、63 巻 1 号、2017、63-84

15 KAMO, Tomoki、How Does the Chinese People's Liberation Army Utilize People's Party Congress?: It’s Changing Relationship with Society、The Association for Asian Studies (AAS) in Asia Conference、査読無、2016

16 倉田 徹、どうなる香港独立論：香港立法会選挙で本土派伸びる、外交、査読無、Vol.39、2016、66-67

17 倉田 徹、雨傘運動後の香港－自由は守られるか?、東亜、査読無、579 巻、2016、34-42

18 倉田 徹、香港立法会議員選挙－「雨傘運動」延長戦へ、世界、査読無、2016 年 11 月号、2016、25-82

19 KAJITANI, Kai and Daisuke Fujii、Spatial analysis of competition among local governments and the price of land: the case of Zhejiang Province、Journal of Chinese Economic and Business Studies (online published)、査読無、Vol.14、2016、229-243

20 梶谷 懐、中国の金融政策と人民元国際化、国民経済雑誌、査読無、214 巻 4 号、2016、33-49

21 金野 純、文化大革命における地方軍区と紅衛兵：青海省の政治過程を中心に、中国研究月報、査読無、70 巻 12 号、2016、16-34

22 LIM, Jaehwan、Chinese Civil-Military Relations Revisited: Party, Military, and Society、Armed Forces & Society (online

published)、査読無、Vol.226、2016
23 加茂 具樹、中国の政治制度と中国共産党の支配：重大局面・経路依存・制度進化（最終回）人民代表大会のなかの軍：変化する解放軍と社会の関係、東亜、査読無、585 巻、2016、100-108
24 金野 純、現代中国の刑事司法制度と「厳打」、東亜、査読無、583 号、2016、96-106
25 高原 明生、「虎退治」－汚職摘発の行方は、中国年鑑 2015、査読無、35-41
26 高原 明生、The Development of Japan -China Relations in the Period of Stability in Cross -Strait Relations、The Journal of Contemporary China Studies、査読無、Vol.4, No.2、2015、119-143
27 倉田 徹、Support for and Opposition to Democratization in Hong Kong、Asia Pacific Review、査読有、Vol.22, No.1、2015、16-33
28 倉田 徹、嵐の中で自由を抱きしめる：「中国化」と香港の自由、国際問題、査読無、643 号、2015、17-28
29 倉田 徹、香港民主化をめぐる制度問題－膠着状態と今後の見通し、東亜、査読無、580 巻、2015、96-104

〔学会発表〕（計 26 件）
1 林 載桓、第 19 回党大会と集団領導制、日本防衛学会、2017
2 高原 明生、不確実な世界の中の中国－ポスト毛沢東時代の終焉か、2017 年度アジア政経学会春季大会共通論題（招待講演）、2017
3 倉田 徹、政治：「高度の自治」から「全面的統治権」への曲折、シンポジウム「香港の過去・現在・未来」、2017
4 金野 純、三反五反運動和労働現場、第 6 届中国当代史研究工作坊（招待講演）、2017
5 KAJITANI, Kai、Corruption in Auctions of Land-Use Rights: Empirical Assessment of Seven Chinese Cities、2nd World Conference for Comparative Economics, in Higher School of Economic、2017
6 梶谷 懐、中国の労働問題と日中関係－歴史的視点から－、第三回日中雇用・労使関係シンポジウム －非正規時代の労働問題－、2017
7 KAJITANI, Kai、Quality of Chinese Market Economy; from the Perspective of History、2nd World Conference for Comparative Economics、比較経済体制研究会、2017
8 KAJITANI, Kai 、Sustainability of Innovation in China: from the Perspective of Institution 、Kyoto International Conference and EACES Asia Workshop、2017
9 倉田 徹、日本東京的新型青年社會運動：從東亞角度分析、香港教育大學・全球城市団卓会議、2016
10 KAJITANI, Kai、Ownership Structures and Disparity in Labor Share of Chinese Industry Companies 、The 2016 China Conference of the Chinese Economists Society、2016
11 梶谷 懐、中国社会と自生的秩序－リスクと仲介の視点から－、日本現代中国学会全国大会、2016
12 金野 純、文化大革命における政治参加と暴力、中国社会文化学会 2016 年大会シンポジウム「文革研究の現在」、2016
13 金野 純、日本における文化大革命研究の現状、国際シンポジウム「中国文化大革命における伝統文化の位置づけに関する基礎研究」、2016
14 金野 純、こぼれ落ちる「人間の声」を拾う、国際シンポジウム「中国 60 年代と世界」、2016
15 林 載桓、The Political Logic of Military Reform: The Case of China、日本国際政治学会、2016
16 高原 明生、A Japanese Perspective on the Dynamics and Prospects of China's Silk Road Initiative、Eurasia ’s Silk Road and Trilateral Prospects for Cooperation（招待講演、国際学会）、2016
17 高原 明生、New Directions in China ’s International Relations 、MERICS lunch seminar（招待講演、国際学会）、2016
18 金野 純、社会主義教育運動與對農村経験的回帰－上海：1963－1966 年、第 7 期韓日両地域中国近代史研究者交流会、2016
19 KAMO, Tomoki、The People ’s Liberation Army in the Local People ’s Congresses: What do the Delegates of the Local People ’s Congresses Represent? 、The Association for Asian Studies (AAS) in Asia Conference、2015
20 加茂 具樹、習近平体制下の中国政治・社会・対外関係「報告 1：政治」、日本現代中国学会、2015
21 高原 明生、A More Slowly Rising China: Will It Change Its External Policies?、The 9th International Convention of Asia Scholars（国際学会）、2015
22 高原 明生、戦後 70 年の日本：日中関係の発展軌跡と展望、中国社会科学フォーラム：戦後 70 年の日本 軌跡と展望（招待講演、国際学会）、2015
23 高原 明生、China ’s Maritime Advancement and Its Relations with Japan and the United States、国際シンポジウム「21 世紀アジアをめぐる海の国際政治」（国際学会）、2015
24 梶谷 懐、The spatial analysis about the competition between the local governments and the land prices: The case study of Zhejiang province、International Conference on Transition and Economic Development（国際学会）、2015
25 倉田 徹、「中国化」と香港の自由：一党支配と多元的市民社会の衝突、日本国際政治学会 2015 年度研究大会、2015
26 倉田 徹、「中国化」と香港の社会運動－

「中港矛盾」、「雨傘運動」とその先－、日本国際政治学会 2015 年度研究大会、2015

〔図書〕（計 16 件）
1 加茂 具樹、林 載桓、高原 明生、倉田 徹、梶谷 懐、金野 純 他（共編）、慶應義塾大学出版会、現代中国の政治制度：時間の政治と共産党支配、2018、224
2 高原 明生、晃洋書房、松田 康博・清水 麗 編著 現代台湾の政治経済と中台関係、2018、240
3 Ryosei Kokubun, Yoshihide Soeya, Akio Takahara, and Shin Kawashima、Routledge、Japan-China Relations in the Modern Era、2017、234+xvi
4 金野 純（共著）、創土社、戦時秩序に巣食う「声」：日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会、2017、350
5 梶谷 懐、京都大学出版会、村上 勇介・帯谷 知可 編 秩序の砂塵化を超えて－環太平洋パラダイムの可能性、2017、284
6 加茂 具樹、毛利 亜樹 他、慶應義塾大学出版会、加茂 具樹 編著 中国対外行動の源泉、2017、230
7 梶谷 懐、ちくま新書、日本と中国経済－相互交流と衝突の 100 年、2016、301
8 金野 純 編著、御茶の水書房、講座　東アジア共同体論　調和的秩序形成の課題、2016、285
9 加藤 弘之、梶谷 懐　編著、ミネルヴァ書房、二重の罠を超えて進む中国型資本主義－「曖昧な制度」の実証分析、2016、316（173-190）
10 吉川 雅之、倉田 徹 共編著、明石書店、香港を知るための 60 章、2016、394
11 家近 亮子、川島 真、平岩 俊司、倉田 徹 共著、放送大学教育振興会、東アジアの政治社会と国際関係、2016、298
12 梶谷 懐、太田出版、日本と近代、「脱近代」の誘惑－アジア的なものを再考する、2015、360
13 梶谷 懐、藤原書店、石井 知章 編 現代中国のリベラリズム思潮－1920 年代から 2015 年まで、2015、576（367-391）
14 KOJIMA, Kazuko、Edward Elgar Publishing、David S.G. Goodman ed. Handbook of the Politics of China "Ideology of the Chinese Communist Party"、2015、531（42-56）
15 小嶋 華津子、加茂 具樹、毛利 亜樹、金野 純、慶應義塾大学出版会、高橋 伸夫 編著 現代中国政治研究ハンドブック、2015、320（57-79）
16 倉田 徹、チョウ イクマン 共著、岩波書店、香港：中国と向き合う自由都市、2015、226

６．研究組織
(1)研究代表者
加茂 具樹（KAMO, Tomoki）
慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・客員教授
研究者番号：30365499

(2)研究分担者
小嶋 華津子（KOJIMA, Kazuko）
慶應義塾大学・法学部（三田）・教授
研究者番号：00344854

倉田 徹（KURATA, Toru）
立教大学・法学部・教授
研究者番号：00507361

毛利 亜樹（MORI, Aki）
筑波大学・人文社会系・助教
研究者番号：00580755

呉 茂松（GO, Mosyo）
慶應義塾大学・経済学部（日吉）・講師
研究者番号：40612693

梶谷 懐（KAJITANI, Kai）
神戸大学・経済学研究科・教授
研究者番号：70340916

高原 明生（TAKAHARA, Akio）
東京大学・大学院公共政策学連携教育部・教授
研究者番号：80240993

中西 嘉宏（TAKAHARA, Akio）
京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授
研究者番号：80452366

金野 純（KONNO, Jun）
学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授
研究者番号：80553982

林　載桓（LIM, Jaehwan）
青山学院大学・国際政治経済学部・准教授
研究者番号：80615237